

学会便り

参与会報告 日産自動車(株)追浜工場見学会 Advisory Committee report: Meeting and visit in Oppama Plant of Nissan Motor Co., Ltd.

高辻 則夫*
Norio TAKATSUJI*

平成27年度第1回参与会・見学会が、7月8日(水)に神奈川県横須賀市の日産自動車(株)追浜工場で開催された。

京浜急行の追浜駅から、日産自動車の送迎バスで、東京湾に面した場所に位置する追浜工場のゲストホールに移動した。

ゲストホールにて追浜工場の概要とフレキシブルライン、EV専用ライン、アライアンス生産方式など見学ラインの説明があった。その後の工場見学では、車体の組立・検査ラインを見学した。1961年にわが国初の本格的乗用車工場として操業を開始した歴史ある工場で、自動車業界初の溶接ロボットを導入したこと、混流ライン(通称:NIMS=Nissan Integrated Manufacturing System)と呼ばれる、同じラインで複数の車種を同時に生産する技術を業界で初めて採り入れた、世界でも屈指の自動化の進んだ乗用車組立工場として発展してきたことや、2010年10月に世界初の量産型電気自動車「日産リーフ」の生産を開始したことなどが紹介された。ゲストホールの展示場では、電気自動車「日産リーフ」の運転席への試乗も可能であり、参加者一同、興味深い工場見学で満足の様子であった。また、社会/地域貢献の一環として小学生や一般の方への工場見学も実施しているとのことで、当日も小学生の見学と遭遇した。

工場見学に続いて、日産自動車(株)総合研究所の阿部様から、「日産自動車における燃料電池自動車の研究開発につい

て」の講演があった(図1)。日産自動車として、自動車の知能化、電動化、CO₂の削減、再生エネルギーへの転換など、環境負荷の少ないゼロ・エミッションを実現するクルマの開発に取り組んでいることなどを説明された。氷点下での始動性、加速性能や航続距離などのパフォーマンスに直結する「燃料電池スタック」の小型化と高出力化などを技術課題として取り組んでいること、本格的な普及に向けては、FCEVの低コスト化、水素インフラの構築、アルミニウムから樹脂への転換、高圧水素の安全性の認知などの課題があることが紹介された。

最後に参与の方々に、今後の参与会の進め方についてのご意見を伺い、以下のようなご意見を頂いた。

- ・構造部材の開発を学会が中心となった産学官で取り組んでほしい
- ・コスト競争に勝つためのフレキシブル技術の開発
- ・チームJapanとして、マルチマテリアル(鉄とアルミニウムの接合)などに産学官のコラボで取り組んでほしい
- ・軽量化と環境対策としてアルミニウムの活用、リサイクル技術が必要

工場見学の最後に、ゲストホール展示場にて参加者全員で記念撮影(図2)を行った後、バスにて追浜駅に移動し、参加者有志による交流会を開催し、懇親を深めた。



図1 講演者 阿部光高氏と参与会メンバー



図2 工場見学会後の記念撮影

*富山大学大学院理工学研究部 (〒930-8555 富山県富山市五福3190)
受付日:平成27年10月14日